

インターンへの

第一歩!

インターンシップの歴史

インターンシップが日本で始まったのは、バブル崩壊後の1990年代です。1997年に文部省、通商産業省、労働省(当時)が「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」をまとめました。そこでは産業界の人材育成を目的として、インターンシップを「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関する就業体験を行うこと」と定めています。

就職氷河期のなか、学生にとって就職活動は学生生活で大きなウエイトを占めるようになりました。大学においても、キャリア教育の重要性が高まり、サポートも充実してきています。現在ではインターンシップの種類は多岐にわたり、学校とは異なる価値基準に触れる機会としてだけでなく、就職活動につながるものとしての側面もあります。

インターンシップの種類

一口にインターンシップといっても、企業などにより千差万別です。ここではインターンシップを3つの種類に分類して紹介します。

セミナー型



特徴 主に1日
(ワンデイインターンシップ)
大企業に多く、ほとんどが無給

内容 会社説明、グループでの作業、社員の体験談紹介や社員との懇談など

メリット

- ・他企業と掛け持ちがしやすい
- ・受け入れ人数が多くて参加しやすい
- ・研究や課外活動とも両立しやすい

見学・仮想体験型

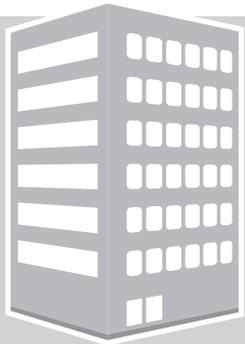


特徴 2日から3週間程度が多い
大企業に多く、交通費などの支給がある場合もある

内容 店舗や工場見学、グループ作業とその成果発表、合宿など

メリット

- ・業界や企業への理解が深まる
- ・グループ内でのより深い交流ができる
- ・場合により、採用にプラスになる



「大学生になったのはついこの前なのに、先輩方がもう就活の話をしている。就活のことなんて全然わからない……」と思っている、そこのあなた！ インターンシップに行ってみるといいですよ！

「ええっ、でもインターンなんて、もっと知らないんだけど……」というそこのあなた！ この記事を読んで、インターンへの第一歩を踏み出しましょう！



インターンシップとアルバイトの違い

皆さんの中にもアルバイトをしている人は多いと思います。どちらも、学生が社会に出て働くという点では変わりませんが、アルバイトとインターンシップはどこが違うと思いますか？

下の表を見てください。両者が大きく違う点は、選ぶときに重視する内容と、実施形態です。インターンシップは、これから社会人となる学生の人材育成を目的とした教育的な側面を持っています。そのため、自分の就きたい職種でどのような体験ができるのかということも選ぶうえで重要になります。

また、雇用する側からの視点も異なります。インターンシップの場合、企業側は企業や職務について学生に理解してもらうことを目的にしていますが、アルバイトの場合、学生の労働力が目的になります。

インターンシップを選ぶ際には、この点にも注意してみてくださいね。

	インターンシップ	アルバイト
重視する内容	職業体験としての内容	時給・勤務時間
実施形態	教育プログラム	短時間雇用

現場実践型



特徴 2週間から1ヵ月程度が多い
理系研究職、中小・ベンチャー企業に多く、有給のものも多い

内容 オフィスでの就業体験、実際の研究・開発・企画への参加など

メリット

- ・現場に即して詳しく業務を理解できる
- ・自分の適正と職場のミスマッチを防げる
- ・採用につながりやすい

さらに、現場実践型の中には、実施期間が半年から1年以上の長期インターンシップというものもあります。今回は長期インターンシップを経験した方にインタビューしました。





京都大学大学院思修館 博士1年

おおき ゆう
大木 有 さん

略歴

- 2014年 大阪大学工学部入学
- 2017年 休学して台湾で1年間のインターンシップ
- 2018年～ 大阪府四條畷市のインターンシップ
- 2019年 京都大学大学院思修館入学

ひとことメモ

大阪府^{しじょうなわて}四條畷市は全国の市役所の中でも珍しく、長期インターンシップを実施しています。

——^{しじょうなわて}四條畷市では長期インターンシップを実施しているそうですね。インターン生はどんな仕事をさせていましたか

僕は住宅や空き家に関する調査をしていました。インターン生は僕を含めて数人いましたが、全員が同じことをしているわけではありません。広報物のデザインを担当している人や、ブログを通して情報発信をしている人もいます。

——いつからインターンシップを始めましたか

2018年の11月から始めました。半年間の契約で今はその2期目です。10月ごろにWebサイトで、四條畷市のインターンシップを見つけて申し込みをしました。

——長期インターンシップとして市役所を選んだのはなぜですか

まちづくりに関心があり、将来国連のような公的な機関で働きたいと思ったからです。市役所で働く人の考えや公共の場所で働く意味を、実際に働くことを通して知りたいと思いました。

——インターンシップで得られたことはありましたか

学生のインターンシップだと、自分でできることはそんなにたくさんはありません。ですが、インターンシップであっても、働いている限り、給料の対価として組織に貢献したり、市民にサービスを提供しなければならぬということを学びました。

——インターンシップを経験して、想像と違っていただけにはどんなことがありますか

企業のサマーインターンシップとは違い、具体的な内容が決まっていなかったことです。四條畷市のインターンシップは僕が3期生で、昨年や一昨年のインターン生の仕事内容をもとに最初のコースは決まっていると思っていたので驚きました。

——インターンシップを始めてから、市役所に対するイメージは変わりましたか

実はインターンシップに行く前は、市役所の仕事についてほとんど何も知らな

かったんです。国から定められた法定業務として、税金や福祉の仕事はすぐに思いつくのですが、ほかにも、住民の生活を良くしようとさまざまなことに取り組んでいることに驚きました。

——学部生の時は何をさせていましたか

アイセックという海外インターンシップを運営する団体に入っていて、海外の学生が日本の企業でインターンシップをするときのコーディネートをしていました。3年生が終わった後に1年間休学して、台湾でインターンシッププログラムに参加していました。

——インターンシップに参加する学生にメッセージをお願いします

自分自身の成長は、人から受け取るだけの経験では得られません。報酬に対して、誰かに対価を与えることが求められます。ですが、誰でも最初は難しいので、できることを着実にこなしていき、一緒に働く人との信頼関係を築いていくことが大事だと思います。

——ありがとうございました

——参考図書——

- 『インターンシップ——キャリア形成に資する就業体験——』 古閑博美 編著
- 『インターンシップ入門 就活力・仕事力を身につける』 折戸晴雄 他 編
- 『はじめてのインターンシップ 仕事について考えはじめたあなたへ』 渡辺三枝子・久保田慶一 編